

ミューラー社のショールームの窓辺に飾られているのは、坑道を支えるアーチをモチーフにした、シュヴィツ・ボーゲン・クリスマスの降臨祭が始まると、各家庭の窓辺に飾られるそうです。



モミの木の木彫品、「タンネンバウム」。



ミューラー社の製品でコーディネートされた、クリスマス。ピラミッド型の飾り棚はキャンドルに灯をとますと、プロペラが回る仕組みになっています。

木工を支える若き職人さん

●リンゴ・ミューラーさん



ザイフェンの名物の一つ、くるみ割り人形。



「ラウフメンシェン」と呼ばれる、煙出し人形。空洞になっている人形の中にお香を立てると、煙が出て、パイプをふかすように見えます。



可愛いデザインのエンジェル人形も豊富です。

ピラミッド型の装飾品やエンジェル・鉱夫人形、クリスマスオーナメント、キャンドルスタンドなど、エルツ山脈地方の工芸品を扱う工房の社長、26歳のリンゴ・ミューラーさんは、腕のいい職人さんでもあります。



ミューラーさんが作っているのが、ピラミッド型の飾り棚。台座から人形まで、一つ一つ木で精巧に作られています。伝統工芸品としても有名。



MÜLLER OHG
Hauptstrasse 132 D-09548
Seiffen/Erzgebirge
Tel. 037362-7710 Fax. 037362-77177

鉱業から木工へと時代は移り、木彫り人形の村として栄える

旅の終わりにかけて、三日間をエルツ山脈の山の中で過ごすことになった。ドイツとチエコの国境をなす山々である。宿は国境近くの峠にあり、テラスに出るとエルツの山波が見渡せた。夕陽を浴びて緑は深みを増し、谷あいには濃く陰影をきざんでいる。澄んだ空気が肌に心地よく触れる。山脈とはいえエルツに高い山はなく、最高峰でさえ千二百メートルそこそこで、山の反対側はチエコである。「鉱石(エルツ)」という名のとおり、十六世紀ころまでは銀や銅の採掘が盛んだった。ザクセン侯国(現在のドイツ・ザクセン州)が栄華と力を誇った時代であり、富の源泉はここにあった。世界的に有名なマイセン磁器を開発する力のみならず、鉱業であった。

エルツは三度目である。最初は旧東ドイツ領だったとき、二度目は東西ドイツの統一直後に国境が開かれたとき、そして今回。それだけに統一後の変化が、まざまざと見てとれる。道路が整えられ、村の家並が新しくなり、ホテルやペンションが建てられ、なによりも風景に華やぎと落ち着きが出てきた。ひとの心が豊かに落ち着いてきたのだろう。